

analysis of hair. International Primatological Society XXIII Congress (2011/09/17, Kyoto).

- 14) 道本久美子, 高見泰興, 田中洋之, 丑丸敦史 (2011) トノサマガエルの個体数と遺伝的多様性の減少をもたらす要因. 第 58 回日本生態学会大会 (2011 年 03 月 09 日, 札幌市).
- 15) 田中洋之, 須賀丈, 丑丸敦史, 湯本貴和 (2011) ホンシュウハイイロマルハナバチの遺伝的多様性. 第 58 回日本生態学会大会 (2011 年 03 月 09 日, 札幌市).

#### 講演

- 1) 川本芳 (2010 年 06 月 24 日) 「ニホンザルをめぐる外来種問題」. 千葉県放射線医学研究所セミナー 千葉市.
- 2) 川本芳 (2010 年 09 月 25 日) 「ブータンのサルと人」. 京都大学霊長類研究所東京公開講座 日本科学未来館(東京).
- 3) 川本芳 (2010 年 10 月 07 日) 「アンデスにおけるラクダ科動物の家畜化と牧畜 — ペルーでの集団遺伝学研究から —」. 世界古代文明フォーラム〜古代社会の生物多様性: 自然開発・共生の世界観と人類進化〜 愛知県立大学学術文化交流センター(長久手町).
- 4) 川本芳 (2010 年 10 月 10 日) 「厩猿の DNA 奥州市で再発見された骨の分析結果」. 厩猿講演会前沢ふれあいセンター(奥州市).
- 5) 川本芳 (2010 年 11 月 11 日) 「遺伝子からニホンザル個体群の孤立をどう測れるか?」. 兵庫県立大学自然・環境学研究所森林動物研究センターセミナー 丹波市.
- 6) 川本芳 (2010 年 11 月 28 日) 「サルのいる風景 アジアの野外調査から」. プリマーテス研究会 日本モンキーセンター(犬山市).
- 7) 川本芳 (2010 年 12 月 04 日) 「ブータンの家畜にみる移牧とミタンの遺伝学的研究」. 総合地球環境学研究所研究会 京都市.
- 8) 田中洋之 (2010/01/28) ミツバチの種・系統・生物地理とスラウェシ島のミツバチ. 平成 22 年度尾北養蜂組合総会 春日井市.
- 9) 川本芳 (2011 年 01 月 16 日) 「ブータンのネコとウシ」. 吉田泉殿・自然学セミナー第 10 回 京都市.
- 10) 川本芳 (2011 年 03 月 01 日) 「ニホンザル野生個体群の遺伝学研究の展開— 孤立、血縁構造、消滅に関する分析の紹介 —」. 京都大学理学研究科人類進化論セミナー 京都市.

#### 系統発生分野

高井正成 (教授), 西村剛 (准教授), 江木直子 (助教), 荻野慎太郎 (教務補佐員), 伊藤毅, 西岡佑一郎 (大学院生)

#### <研究概要>

##### A) 東部ユーラシア地域における新第三紀の霊長類進化に関する研究

##### A-1) ミャンマー産オナガザル上科化石の研究

高井正成, 西村剛, 江木直子, 伊藤毅, 西岡佑一郎

ミャンマーの鮮新世〜更新世の地層を対象に霊長類を中心とした哺乳類化石の発掘調査をおこなった. 鮮新世の地層からはコロブス亜科の化石が発見されており, 分類作業を行った. 更新世の地層から発見されていた大型のオナガザル亜科の化石の系統学的検討を行った.

##### A-2) 神奈川県産コロブス化石の研究

西村剛, 高井正成

後期更新世神奈川県産のコロブス化石の分類の再検討を行っている. 比較検討のため, フランス産ドリコピテクスのオス標本の比較的保存状態の良い部位の外部形態, および CT 撮像による内部構造の分析を行った. また, 現生アジア産コロブス類との近縁性についても検討した.

##### A-3) 中国産大型ヒヒ族化石の研究

西村剛, 高井正成

更新世東・南ユーラシア産プロサイノセファルスと西ユーラシア産パラドリコピテクスの分類の再検討を行っている. 中国産プロサイノセファルス化石の外部形態, および高解像度 CT 撮像による内部構造の分析を行った.

##### A-4) 台湾産オナガザル科化石の研究

荻野慎太郎, 高井正成

台湾国立自然科学博物館の張鈞翔博士と共同で, 台湾南部の中期更新世の地層から見つかったオナガザル科のものと考えられる遊離歯化石の記載, ならびに古生物地理学的研究を行った.

##### A-5) 中国産マカク化石の頭骨内部形態に関する研究

伊藤毅, 西村剛, 高井正成

中国産 *Macaca anderssoni* の化石標本を CT 撮像し, その頭骨内部構造の解析と現生種との比較を行い, その系統的位置について検討した.

##### A-6) 日本列島におけるニホンザルの進化に関する古生物学的研究

西岡佑一郎, 高井正成, 西村剛, 伊藤毅

日本列島の第四紀の洞窟・裂つか堆積物, および縄文遺跡から見つかっているニホンザル化石を解析し, その形態的变化と地理的分布の変遷に関して, 古生物学的に検討した. また, ニホンザル化石の産地と標本のデータベースを作成し, 計 27 地点の標本を整理した.

##### A-7) 朝鮮半島のマカク化石の検討

高井正成

韓国先史文化研究院の李隆助教授と共同で, 朝鮮半島の更新世の遺跡から発見されているマカク化石の検討を行った.

##### A-8) インドネシアのマカク化石の検討

高井正成, 荻野慎太郎

インドネシアのエネルギー鉱物資源省庁のアジス

博士と共同で、ジャワ島から見つかっている更新世の霊長類化石の観察と計測を行い、東南アジアのマカク類の進化史について検討した。

## B) 東部ユーラシア地域における古第三紀の霊長類進化に関する研究

高井正成, 西村剛, 江木直子, 伊藤毅, 西岡佑一郎

ミャンマーのボンダウン地域に広がる中期始新世末の地層から産出する霊長類化石は、原始的な曲鼻猿類と真猿類の中間的な形態を示し、真猿類の起源地と起源地時期に関する論争を起こしている。それらの化石の形態学および系統的な解析をおこなった。

## C) 南米大陸における第三紀の化石霊長類の研究

高井正成, 西村剛

南米大陸各地の第三紀の地層から発見された化石広鼻猿類の形態学および系統的な解析をおこなった。特にコロンビア国南部のラベンタ地域から発見された中期中新世の化石霊長類と、ボリビア国中部のサジャ地域から発見された漸新世末期の化石霊長類を対象に研究を行った。

## D) 現生霊長類における形態学的研究

### D-1) テナガザルの音声生理に関する実験行動学的研究

西村剛, 香田啓貴 (認知学習分野)

テナガザル類の喉頭部の比較解剖と染色組織切片作成により、声帯付近の筋骨格系形態の属間変異を分析した。また、シロテナガザルのヘリウム音声実験データを、音源-フィルターの非線型モデル等を用いて音響学的分析を進め、その音声生成の生理学的メカニズムを考察した。

### D-2) チンパンジーの鼻腔の生理学的機能に関する数値流体工学的分析

西村剛, 鈴木樹理 (人類進化モデル研究センター), 宮部貴子 (人類進化モデル研究センター), 松沢哲郎 (思考言語分野), 友永雅己 (思考言語分野), 林美里 (思考言語分野)

ヒトの鼻腔の生理学的機能の特長を明らかにするために、オトナの生体チンパンジー個体の中顔面部のCT撮像を行い、正確な鼻腔三次元形態のデジタルデータを作成した。それをもとにした、鼻腔内の吸気の流れ、温度・湿度変化に関する数値流体工学的シミュレーションの生理学的モデルを検討した。

### D-3) 曲鼻猿類の副鼻腔形態の変異に関する研究

西村剛

霊長類における副鼻腔の進化プロセスを明らかにするため、高解像度CTを用いて国内外機関に所蔵されている曲鼻猿類頭骨標本を撮像し、全科の副鼻腔形態の変異を明らかにした。直鼻猿類では、旧世界ザル(マカクを除く)で副鼻腔がすべて欠損するが、曲鼻猿類ではそのような大々的な欠損は認められなかった。霊長類の中でも、その欠損はかなり特異的な進化事象であることを明らかにした。

### D-4) 霊長類の四肢についての機能形態学的研究

江木直子

micro CTによる撮像データを用いて、四肢骨の内部構造の解析を行っている。本年度は、CT撮像データを使った内部骨梁構造の定量・定質的観察における技術的問題を再検討した。

また、霊長類における四肢骨形態や姿勢の違いと骨にかかる荷重との関係を力学的に検討するために、筋骨格系の数理モデルの構築を行っている。一般的な霊長類としてオマキザルを使い、今年度はモデル上で近似させる姿勢の検討を行った。

## D-5) 東アジア産マカクの頭骨形状の比較研究

伊藤毅, 西村剛, 高井正成

マカク属の現生種を対象に、CTを用いた頭骨内部構造の解析と幾何学的形態測定を用いた頭骨および歯牙の解析を行い、形状変異の気候環境適応について検討した。

## E) 霊長類以外のほ乳類を主な対象とした古生物学的研究

### E-1) 古第三紀哺乳類相の解析

江木直子, 高井正成

古第三紀(6500万年前~2400万年前)の陸棲脊椎動物相を解析することによって、哺乳類の進化の実態を明らかにすることを目指している。本年度は、①ボンダウン層やモンゴルのエルギリンゾー層から産出した食肉類化石の系統分類学的検討と記載、②アジア東部の古第三紀肉食哺乳類相の比較解析、③肉歯目 *Hyaenodon* の頭蓋の機能形態解析を行った。

### E-2) ミャンマー中部における中新世から更新世の新第三紀哺乳類相の解析

西岡佑一郎, 荻野慎太郎, 高井正成, 江木直子, 西村剛

ミャンマーの新第三紀哺乳類生層序の解明を目指し、中新世から更新世に生息していた哺乳類相の形態、系統と進化に関する研究を行っている。チャインザウク地域やグウェビン地域のイラワジ層、サバー地域の第四紀堆積物から産出した化石を同定し、他地域産動物との系統学および古生物分類地理的關係を検討した。哺乳類相には、ヤマアラシ属 (*Hystrix*)、食肉類 (*Agriotherium*, *Amphicyon*, マングース), サイ, ゾウ, カバ, ブタ, マメジカ, キリン, 多数のウシ科などが含まれる。また、産出哺乳類の種類や歯牙化石に含まれる酸素と炭素安定同位体を用いて各動物相の古環境や古生態に関する研究を行った。さらにインドのパンジャブ大学地質学部のパトナイク博士と共同で、同地のシワリク相から見つかっていた哺乳類化石との比較を行った。

### E-3) 島根県産の前期中新世ビーバー化石の研究

西岡佑一郎, 高井正成

島根半島の古浦層(約2000万年前の地層)から産出した大型のビーバー化石 *Youngofiber* (ヤングファイバー属) を記載し、pQCT スキャンを用いて歯の内部エナメルパターンを観察した。これまで日本のビーバー化石は瑞浪市, 可児市, 佐世保市から知られていたが、今回の報告によって新しい産地を追加するこ

とができた。

## <研究業績>

### 原著論文

- 1) Nishimura, T, Zhang, Y, Takai, M. (2010) Nasal anatomy of *Paradolichopithecus gansuensis* (Early Pleistocene, Longdan, China) with comments on phyletic relationships among the species of this genus. *Folia Primatologica* 81(1):53-62.
- 2) Yano W, Egi N, Takano T, Ogihara N (2010) Prenatal ontogeny of subspecific variation in the craniofacial morphology of the Japanese macaque (*Macaca fuscata*). *Primates* 51(3):263-271.
- 3) Zhang YQ, Jin CZ, Takai M (2010) A partial skeleton of *Macaca* (Mammalia, Primates) from the early Pleistocene Queque Cave site, Chongzuo, Guangxi, South China. *Vetebrata PalAsiatica* 48(3):275-280.
- 4) Zin Maung Maung Thein, Takai M, Tsubamoto T, Egi N, Thaung Htike, Nishimura T, Maung Maung (2010) A review of fossil rhinoceroses from the Neogene of Myanmar with description of new specimens from the Irrawaddy Sediments. *Journal of Asian Earth Sciences* 37(2):207-210.
- 5) 伊藤毅, 荻野慎太郎, 西岡佑一郎, 高井正成 (2010) 幾何学的形態測定を用いたニホンザル (*Macaca fuscata*) の歯種同定の試み. *霊長類研究* 26:3-12.
- 6) 河野重範, 平山廉, 藺田哲平, 高橋亮雄, 久保泰, 酒井哲弥, 高井正成, 荻野慎太郎, 高桑祐司, 青木良輔, 入月俊明 (2010) 島根県松江市美保関町の下部中新統古浦層より発見された陸生脊椎動物 (予報). *化石研究会会誌* 42(2):95-102.
- 7) Tsubamoto T, Zin-Maung-Maung-Thein, Egi N, Nishimura T, Thaung-Htike, Takai M (2011) A new anthracotheriid artiodactyl from the Eocene of Myanmar. *Vertebrata PalAsiatica* 49(1):85-113.
- 8) Zin-Maung-Maung-Thein, Takai M, Uno H, Wynn J, Egi N, Tsubamoto T, Thaung-Htike, Aung-Naing-Soe, Nishimura N, Yoneda M (2011) Paleoenvironmental analysis of Chaingzauk mammalian fauna (Late Neogene, Myanmar) using stable isotopes of tooth enamel. *Palaeogeography, palaeoclimatology, palaeoecology* 300(1-4):11-22.

### 報告

- 1) 兼子尚知, 荻野慎太郎, 坂田健太郎, 坂田澄恵 (2010) 自然の不思議「鳴り砂」地質ニュース 672:37-38.
- 2) 西村剛 (2010) 霊長類の音声器官の比較発達—ことばの系統発生. *動物心理学研究* 60(1):49-58.

### 著書 (分担執筆)

- 1) 江木直子 (2010) 剣歯虎, 食肉類, 肉歯類, ミアキス類, 裂肉歯 「古生物学事典 第2版」 (日本古生物学会編集) p.150, p.243-244, p.388, p.474, p.524 朝倉書店.

- 2) 西村剛 (2010) 項目執筆 「生物学辞典」 (東京化学同人編) 東京化学同人.
- 3) 西村剛 (2010) 話しことばの生物学的基盤, シリーズ朝倉 言語の可能性 4. 「言語と生物学」 (長谷川寿一編) p.70-96 朝倉書店.
- 4) 高井正成 (2010) アウストラロピテクス, アルデイピテクス, イブ仮説, エオシミアス類, エナメル質, オロリン, ギガントピテクス, サヘラントロプス, シバピテクス, ツパイ類, ネアンデルタール人, プルガトリウス, プレシアダピス類, ホモ・サピエンス, 猿人, 旧人, 狭鼻猿類, 曲鼻猿類, 原人. 「古生物学事典 第2版」 (日本古生物学会編) 朝倉書店.
- 5) 高井正成 (2010) 霊長類の起源, 曲鼻猿類, シヴァピテクス, 真猿類, 人類紀, 人類の進化, 直鼻猿類. 「生物学辞典」 (東京化学同人編) 東京化学同人.

### その他の執筆

- 1) 高井正成 (2011) 化石は語る—ヨザルの化石の大きな犬歯. p.147-151. 京都大学グローバル COE 生き物たちのつづれ織り.
- 2) 高井正成, 西村剛 (2011) バーチャルな目で実体に迫る. p.172-178 京都大学グローバル COE. 「生物の多様性と進化研究のための拠点形成—ゲノムから生態系まで—」生き物たちのつづれ織り.

### 編集

- 1) 高井正成 (2010) 古生物学事典 第2版 p.1-576 日本古生物学会.
- 2) 西村剛 (2010) 生物学辞典 東京化学同人 (編集協力)

### 学会発表

- 1) Anezaki T, Hongo H, Shigehara N, Takai M (2010) A morphometric analysis of the Japanese macaque (*Macaca fuscata*) teeth archaeological sites, Japan. *IPS2010* (2010/09, Kyoto).
- 2) Chen H, Nishimura T, Takai M (2010) The trabecular bone microstructure of the cervical, thoracic and lumbar spine in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *IPS2010* (2010/09, Kyoto).
- 3) Egi N, Chit-Sein, Zin-Maung-Maung-Thein, Thaung-Htike, Takai M (2010) New amphicyonid (Mammalia: Carnivora) from the Lower Irrawaddy Sediments (Myanmar) with comments on *Amphicyon* species from the Miocene of Asia. *Journal of Vertebrate Paleontology*, 30 (supplement to 3) 84A. 70th Anniversary Meeting Society of Vertebrate Paleontology 年会 (2010/10, Pittburgh, USA).
- 4) Egi N, Nakatsukasa M, Kalmykov NP, Maschenko EN, Takai M (2010) Distal humeral and ulnar morphology of *Parapresbytis*, a Pliocene colobine from Russia and Mongolia. 23rd Congress of the International Primatological Society (2010/09, Kyoto).
- 5) Egi N, Ogihara N, Yano W (2010) Growth change of calcaneal internal structure in Japanese macaque: correlations with locomotor development. *The 75th*

- annual Meeting of American Association of *Physical Anthropologists* (2010/04, Albuquerque, USA).
- 6) Ito T, Nishimura T, Takai M (2010) Climatic influences on cranial variation in *Macaca fascicularis* and *M. fuscata* 23rd Congress of International Primatological Society (2010/09, Kyoto).
  - 7) Nishimura T (2010) Primate foundations and origins of human speech. The 4th International Symposium of the Biodiversity Global COE Project "Formation of a strategic base for biodiversity and evolutionary research: from genome to ecosystem". Biodiversity Global COE Project (2010/09, Kyoto).
  - 8) Nishimura T, Qin Zhangxian, Takai M, Zhang Yingqi, Jin Changzhu (2010) Nasal anatomy of *Paradolichopithecus gansuensis* (early Pleistocene, Longdan, China) and its phyletic relationships with the other species of this genus. The 75th Annual Meeting of the American Association of Physical Anthropologists (2010/04, Albuquerque, USA).
  - 9) Nishimura T, Takai M (2010) Evolution of Large Cercopithecines *Procynocephalus/Paradolichopithecus* from the Middle Pliocene and Early Pleistocene of Eurasia. International Primatology Society 23th Congress Kyoto 2010 (2010/09, Kyoto).
  - 10) Nishioka Y, Anezaki T, Takai M (2010) Size variations of the molars of the Quaternary Japanese macaque. 23rd Congress of International Primatological Society (2010/04, Kyoto).
  - 11) Nishioka Y, Zin-Maung-Maung-Thein, Thaug-Htike, Egi N, Takai M (2010) Evolutionary change in porcupines in the late Miocene to Pleistocene of central Myanmar. 70th Anniversary Meeting Society of Vertebrate Paleontology (2010/10, Pittsburgh, USA).
  - 12) Ogino, S., Egi, N., Takai, M., Zin-Maung-Maung-Thein, Thaug-Htike. (2010) A new specimen of *Agriotherium* (Mammalia, Carnivora) from the late Miocene to early Pliocene Irrawaddy Sediments, Myanmar. 70<sup>th</sup> Anniversary Meeting Society of Vertebrate Paleontology (2010/10, Pittsburgh, USA).
  - 13) Sonoda T, Hirayama R, Takai M, Thaug-Htike, Ando H (2010) A preliminary report of fossil turtles from the Irrawaddy Group (the Latest middle Miocene to Early Pleistocene) in Myanmar. ICP-SEA (2010/11, Mahasarakham, Thailand).
  - 14) Takai M, Htike T, Maung Thein ZM, Egi N, Tsubamoto T (2010) First discovery of colobine fossils from the late Miocene/early Pliocene of central Myanmar. 23rd Congress of International Primatological Society (2010/09, Kyoto).
  - 15) Yano W, Egi N, Takano T, Ogihara N (2010) Ontogenetic divergence of craniofacial morphology between two subspecies of Japanese macaque (*Macaca fuscata*). 23rd Congress of the International Primatological Society (2010/09, Kyoto).
  - 16) 河野礼子, 張穎奇, 王元, 金昌柱 (2010) ギガントピテクス大臼歯の三次元形状. 第 64 回日本人類学会大会 (2010/10, 伊達市).
  - 17) 西村剛 (2010) 話しことばの霊長類的基盤. 第 64 回日本人類学会大会 (2010/10, 伊達).
  - 18) 西村剛, Renaud Lebrun, Marcia Ponce de Leon, Christoph PE Zollikofer (2010) 曲鼻猿類における副鼻腔形態の変異について. 第 64 回日本人類学会大会. (2010/10, 伊達).
  - 19) 西岡佑一郎, 立命館大学学術探検部 (2010) 学術探検部と研究者の共同調査とその成果—高知県穴岩の化石発掘調査を例に—. 第 36 回日本洞窟学会 (2010/09, 湘南).
  - 20) 西岡佑一郎, 立命館大学学術探検部 (2010) 高知県佐川町「穴岩」調査報告. 第 36 回日本洞窟学会 (2010/09, 湘南).
  - 21) 西岡佑一郎, 姉崎智子, 岩本光雄, 高井正成 (2010) 第四紀ニホンザル歯牙化石の年代的・地理的形態変異. . 日本古生物学会 (2010/06, つくば).
  - 22) 荻野慎太郎, 江木直子, 高井正成, ジンマウンマウンティン, タウンタイ (2010) ミャンマーの中—鮮新統からみつかった *Agriotherium* 属 (クマ科、食肉目) の下顎標本. 日本古生物学会年会 (2010/06, つくば).
  - 23) 高井正成, 張鈞翔, 荻野慎太郎 (2010) 台湾南部左鎮の中部更新統産出の 2 種類の霊長類化石について. 日本古生物学会年会 (2010/06, つくば).
  - 24) 高井正成, ジンマウンマウンティン, タウンタイ (2010) ミャンマー中央部の新第三紀後半の環境変動に関する古生物学的解析. . 日本地球惑星科学連合大会講演予稿集 (CD) (2010/05, 幕張).
  - 25) 安藤佑介, 西岡佑一郎, 荻野慎太郎, 中上野太, 柄沢宏明 (2011) 古生物の復元画とイメージキャラクター—地方博物館にもたらしもの—. 例会 2011 年第 160 回日本古生物学会, (2011/01, 高知).
  - 26) 江木直子, 中務真人, Kalmykov NP, Maschenko EN, 高井正成 (2011) 鮮新統シベリア産出の最北のコロブス類 *Parapresbytis*: 肘関節形態が示唆する系統的位置と生態復元日本古生物学会例会. 生態復元. 日本古生物学会第 160 回例会 (2011/01, 高知).
  - 27) 平田慎一郎, 小田隆, 徳川広和, 荻野慎太郎 (2011) 研究者×博物館×アーティスト小規模特別展の可能性 ~わだ自然資料館特別展「モササウルス」の事例より~. 日本古生物学会第 160 回例会夜間小集会 (2011/01, 高知).
  - 28) 河村善也, 西岡佑一郎 (2011) 四国で発見されたハタネズミ属化石の意義. 日本古生物学会例会 2011 年第 160 回. (2011/01, 高知).
  - 29) 西岡佑一郎, 河村善也, 村田葵, 中川良平, 安藤佑介 (2011) 高知県猿田洞から産出したハタネズミを含む第四紀哺乳類化石群集. 日本古生物学会例会 2011 年第 160 回 (2011/01, 高知).

#### 講演

- 1) Takai M (2010/02/19) Faunal transition in S Asia during later Neogene Lecture and workshop at Postgraduate Institute for Archaeological Studies, Sri Lanka. Colombo, Sri Lanka.
- 2) Takai, M (2010/12/02) "Evolutionary history of the Neogene fossil primates in Asia" International Master in Quaternary and Prehistory in Quaternary and

Prehistory, QP 11 Module “Quaternary and Prehistory of southeast Asia. - Paris, France.

- 3) 西村剛 (2010/02) サルの進化、ヒトの進化. 第6回生体工学と流体工学に関するシンポジウム. 金沢.
- 4) 高井正成 (2010/06/12-13) パゴダの国でサルの化石を探して. 日本古生物学会学術賞受賞記念特別講演 筑波大学 日本古生物学会 2010 年年会講演予稿集、2 頁.

## 社会生態研究部門

### 生態保全分野

渡邊邦夫 (教授), 半谷吾郎 (准教授), 橋本千絵 (助教), 松田一希 (非常勤研究員), 松原幹, 郷もえ, Andrew J. J. MacIntosh (教務補佐員), Rizaldi, 張鵬, Cedric Suer (学振外国人特別研究者), 大谷洋介, 澤田晶子 (大学院生)

#### <研究概要>

##### A) ニホンザルの生態学・行動学

渡邊邦夫, 半谷吾郎, 松原幹, Rizaldi, 張鵬, 松岡絵里子, 澤田晶子, 大谷洋介

人為的影響の少ない環境にすむ、野生のニホンザルが、自然環境から受ける影響に着目しながら、個体群生態学、採食生態学、行動生態学などの観点から、研究を進めている。

屋久島の瀬切川上流域では、森林伐採と果実の豊凶の年変動がニホンザル個体群に与える影響を明らかにする目的で、「ヤクザル調査隊」という学生などのボランティアからなる調査グループを組織し、1998年以來調査を継続している。今年も夏季に一斉調査を行って、人口学的資料を集めた。この資料を基に、ヒトリザルの密度と、その地域変異・地理変異について分析した。

幸島では、コドモの社会関係に影響する要因について研究を行った。

霊長類研究所の放飼場のニホンザルと京都市嵐山の餌付けニホンザルを対象に、ニホンザルが社会生活を送る上で重要な攻撃行動に際しての調整や転嫁、援助を求める行動などの発達について研究を行なった。小豆島のニホンザルの社会交渉についての研究を行った。

##### B) ニホンザルの消化能力の研究

澤田晶子, 半谷吾郎

飼育個体を対象に、消化率と食物の消化管通過時間についての実験的研究を行った。

##### C) ニホンザルの個体群管理

渡邊邦夫, 江成広斗,

多様な観点からニホンザルによる農作物被害の問題解決を図るため、農作物被害を起こしているニホンザルの食性や土地利用に影響を与える要因の分析、有効な被害管理手法の開発、猿害についての社会学的研究などを、青森県白神山地で行った。

##### D) 野生チンパンジーとボノボの研究

橋本千絵

ウガンダ共和国カリンズ森林、コンゴ民主共和国ワンバ地区で、それぞれチンパンジーとボノボの社会学的・生態学的研究を行った。チンパンジーの遊動や行動のデータをとるとともに、定量的な植生調査や果実量調査を平行して行い、チンパンジーの行動や社会関係が環境からどのような影響を受けているかという点に注目して、研究を行っている。